

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 中部大学春日丘高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
所在地 〒487 -8501
E-mail yamamura@haruhigaoka.ed.jp
Website http://www.haruhigaoka.ed.jp/senior/
幼児児童生徒数 男子 881 名 女子 659 名 合計 1540 名
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

平成 29 年度の ESD 学習活動は、昨年度と同様に主に以下の三つの柱で成り立っています。

一つ目は「修学旅行を通じた ESD 学習」です。平成 26 年度、ユネスコスクールへの加盟申請を機に、修学旅行の学習を、学校全体で取り組む「ESD 学習」と位置付けました。そして平成 27 年度より、全校的な ESD 学習活動として、第 2 学年 500 人を対象とした「課題探求型学習」をスタートしました。教育課程の異なる 4 つのコースの修学地 (沖縄、シンガポール、オーストラリア) に対して「持続可能な社会の発展に向けての街づくり、国づくり」を共通のテーマに定め、1 班 4 ~ 5 人に分かれて、5 つの研究領域 (① 少子高齢化 ② 経済 ③ 環境 ④ 平和 ⑤ 異文化理解) から一つを選択し、事前学習 → 文化祭での中間発表 → 現地学習 → まとめ学習 (研修記) → 全体発表 (プレゼンテーション) の流れで ESD 学習を 1、2 学年対象で行っています。今年度で 4 回目となり、少しずつ修学旅行後の学校行事として定着してきています。今年度は、国際コースにおいて、世界中で問題となっているホームレスの人々に注目し、問題点とその対策について英語でプレゼンテーションを行いました。最後に、中部大学の中島泉先生から総

評をいただき、このESD学習が今後どうあるべきかをご助言していただきました。(写真①)

修学旅行を活用した「課題探求型学習」は、現地学習(フィールドワーク)を含むため、生徒が事前学習で得た知識を、現地での体感とともに確認でき、学びに対する充実感や達成感が得られることが期待できます。今後は、問題基盤型学習(Problem Based Learning)の手法を取り入れ、評価方法とともに「ESD 課題探究型学習」をさらに発展させていければと考えています。

二つ目は、本校国際コースの「異文化学習」です。これまで10年以上にわたり、JICAの研修員や中部大学の教授を招き、「グローバル課題研究」やSGH校に伴う学校設定科目「ロジカルシンキング」や「クリティカルライティング」の時間に、「世界で起きている事を論理的、かつ批判的に考える力」を養ってきました。現在カナダとオーストラリアに交流校がありますが、今後はさらに海外の交流校を増やし、異文化理解の「生」の学習機会を増やしていく計画です。

三つ目は、本校インターアクトクラブ(ボランティア活動クラブ)の「地域貢献活動」です。これまで10年以上に渡り、週末に地元地域の高齢者施設、障害者施設、学童保育施設を訪れ、施設のお手伝いや、施設の人々を元気づける娯楽等の企画を立案・運営してきました。現在は約80人まで部員数が増え、年間を通じて40か所近い施設で、多彩な地域貢献活動を行っています。今後は、その活動領域を外国に広げ、国際化を目指していきます。

本校は、これまでの教育活動を「ESD」の概念に照らして見つめ直し、その教育内容の充実へと動き始めたばかりです。ESD学習を通じて、生徒が実社会に目を向け、自分の未来像を描くきっかけとなるように、これからのESD学習を発展させていきたいと考えています。(写真②)



写真①



写真②

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・新沖縄修学旅行 梅田正己
- ・ミャンマーの経済の新しい光 三重野文晴
- ・水の未来 沖大幹
- ・インドネシアの公的医療保険制度改革の動向 鈴木久子

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

国際コースを主な対象として、教育内容を他コース（啓明コース、特進コース、進学コース）へ順次還元し、グローバル、特にアジア諸国の社会・ビジネス課題を題材とした「グローバル課題研究」と「論理的思考力に基づいた発信力」を養う教育カリキュラムを確立し、「地域のグローバル化を支える人材の育成」をめざしています。

「少人数グループによるゼミ形式のグローバル課題研究(6単位)」と「コミュニケーション・スキル科目(15単位)」により、グローバル・リーダーの育成を推進しています。本校はグローバルリーダー育成に資する以下の4分野を設けている。

①国際開発分野 ②国際ビジネス分野 ③環境・エネルギー分野 ④国際医療・福祉分野

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校は中部地区ESD拠点校になっている中部大学と非常に密に連携を取っており、施設の共有や教員の乗り入れ、イベント開催など様々な部分で協力関係にある。そのため、情報交換が頻繁に行われ、世の中の情勢やESD活動の広がりなどを共有し、それをまとめ、報告する場などが数多く設けられている。また、本校ESDのイベントとして先に述べたESDプレゼン発表会を通して、全コースに学んだ内容を共有する体制が整っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校はSGH校に認可されており、SGHの様々な活動やそれに対する評価においてESD活動とリンクしている。まず、本校での活動の内部評価として「グローバルコンピテンシー自己評価表」を用い、4月、7月、12月の3回アンケートを行い、それについて分析を行っている。また、外部評価として愛知教育大学の竹川教授よりご助言をいただき、段階的な評価活動を施行した。

第一学年においては校外学習での情報収集やポスターセッションなどの活動において、「積極性」、「協働作業」、「コミュニケーション能力」の自己評価が高まった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

先に述べたように中部大学と密に協力しているため、大学が主催となって行われるESD活動発表会(中部大学ESDシンポジウム)に参加し、外部評価委員の方々から助言を頂き、今後の活動に生かしている。また、名古屋地区の中学校・高等学校が主催する発表会(ESDコンソーシアム)にも年に一度参加し、成果発表を行っている。同じ高校生がどのような活動をし、成果を挙げているかを肌で感じることで、大きな刺激を与えられている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

⑤で述べましたので、割愛させていただきます。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ASPnetを通して海外のユネスコスクールと交流を図る体制は整えているが、普段の業務に時間を取られており、あまり活用できていないのが実態である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ESD活動を広める為に、世界で活躍できる人材育成にも積極的に取り組んでいる。その一環としてGTEC for Students と英検を用い、英語力の伸長を測っている。

英検では2級以上、GTECでは675点以上を卒業時までの目標としており、国際コース2年生1月の段階では目標達成は半分ほどである。

「考える、書く、話す、調べる、聞く」を英語で行う機会を様々な授業の中で設けることで、生徒(特に中下位層)の英語に対するモチベーションをあげることができた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今まで培ってきた体制と他校との連携を継続させつつ、調べたことを発信する力をさらに養う必要があると感じている。また調べる内容や情報源がすべて日本語ベースになっており、英語ベースの情報源が極端に少ないことがわかった。英語ベースのものを使用することによって、日本だけではなく、世界で起きている問題や現象にも興味を持たせることができると考えている。さらに今後は英語で発表することをさらに深化させることを目標に、即興でスライドの内容を英語で話すといったような瞬発的な英語の発信力をつけて行くためのプログラムを計画していく予定である。

今年度の最大の課題が、生徒の取り組みがまだまだ「受動的」であったことである。生徒自らが「課題を発見」し、その解決策を「思考し発表」する。その為には道筋を立てて物事を考える「論理的思考力」、さらには他の生徒との「協働作業」を行うための「コミュニケーション力」が不可欠である。上記の様々な能力を養成する方法として、本校ではアクティブラーニングを研究し、それを各教科で実践している。今後は今年度の実践をさらに深く研究し、外部講師の指導などを受けながらより充実させていく。